
銃声のなかで

karupisu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銃声のなかで

【著者名】

NO890N

【作者名】

karupisu

【あらすじ】

普通の日常生活を送っていた日向だが、ある日マフィアに撃たれたらしい
女の子を助けて大変なことに…。日向とマフィアな女の子が贈るアクションもの

プロローグ ～謎の女の子～

俺は日向。

周りの人は俺のことを怪物 モンスター と呼んでくれる
まあ、略してモンスと呼んでくるのも多数いる

別に嫌われているわけでもない

俺は、周りの人より頭が悪い。だけど、怪物なみに運動神経がいい
らしい。

（自分はこれでも普通なんだけどな～）

自分の家族は皆頭がいい。その祖先も頭がよかつたらしい。
だから、家族のみんなが「異常気象だあ～！」などとへんなことば
かり言ってくる

（異常気象の使い方あたつてるか？）

俺はそう思う。

最近はこの近くでマフィアみたいなのがいるらしいな
(なんで、この国にマフィアいるんだよ)

今、学校では集団登校や集団下校が行われている
俺は、参加しないけどな～
どうせ、噂でしかないだろ…

タアーネーーン

ん？

今、へんな音しなかつたか？

俺は、音のほうへ向かっていった。

近かつたのですぐ着いた

そこには、足を怪我している女の子が… いる?

誰につけられた? まさか、マフィアか?

マフィアの話は、本当… なのか?

だとしたら、冗談じゃない

だからと言つて目の前の女の子は放つておけない

女の子をお姫様抱っこして走った

カツカツカツカツ

後ろから足音が聞こえるな

俺は後ろを向いた。すると

!!! リバーマン、アシヤね!!

ちょ、これ、ヤバくね？

え、なに？ これ何かの撮影？

卷之三

撃つできやかーた人生そんないよねええええう！！！
なんか、外国語つぶやいてるし ツイッターかお前たちはーー
仕方がない、危険だがちょっと屋根の上から行くか
ぴょーんと飛び乗った俺になんか銃を撃ちまくってるんだけどおお

- 1 -

うお、これモノホン弾丸だ、かすり傷ついちゃった
でも、運が良かつたのか、かすり傷だけで撒けた

可二

何とか、生きられたな
いや、冗談じやなくて

卷之三

忘れてたああ（泣）

そんな俺は腕時計を見た

〔釋名〕

なにが運がいいだ（泣）

屋根を飛び越えて俺は急いで学校へ行つた

(「あんたが、この女の...」)

第1声 マフィアの謎

はあー

さつきは大変なことに巻き込まれたな～

学校についてからは、先生に怒られたあげく減点された

俺は今、先生の許可を得て病院にいる

あのことを思い出すたび、かすり傷が痛む。

あの子大丈夫かな？

女の子は病室で治療してもらつてる

気が散るらしいので外で待つている

ガラガラ…

お、終わつたらしいな

「弾が足に残つていたので手間取りました」

そう、言い残してどこか行つた

やつぱ、撃たれてたのか

まあ、あの様子からすると大丈夫かな？

ガラガラ…

俺は病室に入った

彼女は、体を起こしていた

か、可愛い…

さつきは逃げるので精一杯だつたのでよく見てなかつたので改めて見ると可愛いな

その顔に、黒髪のツインテールがよく似合つてる

「あの医者から聞いたわよ、あなたが助けてくれたんですってね」

「ああ…」

そう、会話して黙つた

髪が、風に揺られている

「お前、名前は？」

「人に名前を聞く時は自分から名乗るもんよ」

「「めん 僕は田向だ」

「私はマリア。さつきは助けてくれてありがとう。よろしくね
「ああ…」

「マリアか、外国人だな

「なんで、マフィアなんかに？」

「私はマフィアの子なの」

「… おいおい、へんなの助けちましたよ
しかも、助けちましたから完全に敵対しちまうじゃねーか…！」

「マジ？」

「マジよ」

「ですよね～ まったく人生そういうまくいかないもんなんだね（泣）

「それにしても、日本語ペラペラだな」

「お母さんに教えられてたの、子供の時から

「？ お前子供だろ？」

「！ 失礼ね、私は高一よ…」

「は？ その身長で？」

「つぬせーーー 身長のこと話わないで…」

本当に怒ってるらしく、なんかオーラを感じる

「ま、その話は置いといて、お前これからどうすんだよ？」

「？ あなたの家に泊まるにきまつてるじゃない。へんなこと言つわね」

は？ 決まつてるじゃないっておい、だれがそんなに話を進展させた？

「なに？ まさかこのまま放置にじょつとしてたわけ？ 無責任な人ね」

「悪かったな、無責任で（泣）

「といつことで、これからもよろしくねー田向！ つて何泣いてんのよ」

「いや、これから大変なことになるなあ～って

「あたりまえじゃない、助けたんだから最後まで責任持ちなさい」

「ま、このままだとまた、怪我しかねないからな。てか、なんでもマフィアの娘がマフィアに狙われたん だよ？」

「家出したの」

出たでたよくある展開

「なんで？」

「お父さんみたいになりたくないの」「マフィアの娘もそんなこと言うんだな。一つ発見だ

「私はもつと人の役に立ちたい」

うお、なんちゅう素直な子 見習つてほしいね、親も

ターン

ん？聞いたことがあるような音がしたぞ？

「銃声だわ！！」

「そうそう、銃声… つておい…！」

「お、おい危ないんじゃないか？」

「あ、あんた、あわてすぎよ」

「ちょ、逃げるぞ」

「つてどこから？ 逃げ場はないわよ

「ある、つかまれ」

「そこ、窓よ！」「は4階… 無茶だわ…！」

「俺を信じろ…！」

マリアがつかまつて窓を開ける

ドアが開いた

マフィアが入ってきた

なんか、俺の行為に驚いてるな

銃を向けて「待て！！」などと言つているな

銃向けられて待つわけないだろ馬鹿かお前たちは…！」

「いくぞー…！」

「え、ちょ、まつて〜〜〜〜

などという声を聞きながら4階の窓から飛んだ

ターン ターン

おい、娘いるのに撃つてきてるや～（泣）

マリアには当てないようにしてるのか全然あたらないな
ドライマシーンみたいに着地してそのまま逃げる

高所恐怖症なのか 気絶しかけてるな

屋根上から行くか、今日は一回田だな

「キヤ～～～～～～～～」

お、おいそんなんに暴れんなよ～

落ちるだろ～

何とかマフィアの声が届かないところまで来たな

今日はほんと疲れるな～（泣）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0890z/>

銃声のなかで

2011年12月3日13時14分発行